

	1049	科目区分	教職に関する科目(中・高一種免許)
(フリガナ)	キョウイクソウダシノリントホウホウ	(フリガナ)	ハシモトダイジ
授業科目名	教育相談の理論と方法	担当教員名	橋本 大治
英文授業科目名			
基準年次(開講期)	2年生(後期)	履修形態	教職
曜日/時限/講義室	火曜日/2時限/312教室		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義中心、演習中心
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	児童・生徒理解は生徒指導の基礎基本であり、同時に学習者自身の自己(内面)理解を深化、拡充させる		
授業概要・目的	教育相談の意義を理解し、教育相談で活用される各種心理療法及びその理論的背景について理解を深める。そのうえで発達に応じた子ども理解と支援の方法について理論的に学び、実際の支援場面において用いることができるような支援技術をロールプレイ等を通して身につける。また、実際の現場で起こりうるケースを取り上げ、個別に支援方法を考え、グループディスカッション等を通して他者の意見を参考にしながら、自分自身の考えを深める。		
到達度評価の 評価項目	①教育相談の意義や必要性について、学校現場における事例の検討をふまえて、自分の言葉で具体的に説明することができる。 ②教育相談で活用される各種心理療法の基礎事項を学び、ロールプレイで基礎技術の定着と活用力を向上させることができる。 ③子どもの問題行動について、発達段階に応じた課題を具体的な事例からとらえ、グループ討議により対応や相談の在り方について検討することができる。		
授業計画			
第1回	教育相談とは何か(学校における教育相談の位置づけ)		
第2回	子ども理解の視点と方法(観察法、面接法、心理検査)		
第3回	教育相談で活用される各種心理療法の理論(来談者中心カウンセリング、指示的カウンセリング)		
第4回	教育相談で活用される各種心理療法の理論(行動療法、遊戯療法、箱庭療法)		
第5回	教育相談で活用される各種心理療法の理論(交流分析、心理劇、ロールプレイ)		
第6回	児童期における子どもの問題行動の特徴(学校という場の問題、適応上の問題、環境の問題)		
第7回	児童期における子どもの問題行動の実際(学業不振、社会的問題)		
第8回	児童期における問題行動に対する相談(理解の手順、視点、働きかけ)		
第9回	児童期における問題行動に対する相談の実際(ロールプレイや認知カウンセリング等)		
第10回	青年期における問題行動の特徴(適応上の問題、環境の問題)		
第11回	青年期における問題行動(精神障害、自殺)		
第12回	青年期における問題行動に対する相談(理解の手順、視点、働きかけ)		
第13回	青年期における問題行動に対する相談の実際		
第14回	各種相談機関との連携(児童相談所、教育発達支援センター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)		
第15回	各種相談機関との連携の実際		
教科書・参考書等	テキストは特になし。参考書「学校教師のカウンセリング基本訓練」 上地安昭 北大路書房		
授業で使用する 機器等	特記なし。必要に応じてパソコンとプロジェクター。		
予習・復習への アドバイス	① 授業の冒頭で、ミニテスト(検討会)を実施。 ② 講義のまとめと、意見集約のレポートを課す。		
履修上の注意・ 受講条件等	学習資料は、毎時冒頭に配布する。レポートは、次の講義日までが基本の提出期限(課題の内容により例外あり)。		
成績評価の基準等	○レポートの提出・・・30% ミニテスト・検討会の成績・・・10% 定期試験・・・60%		
メッセージ	児童生徒が、笑顔で日々学習や諸活動に取り組めるように、その基盤となる「心」の理解と支援のあり方を検討します。その過程で、学習者自身の豊かな心の醸成に努めます。		
オフィス・アワー	授業日の10時から30分。非常勤のため、ゆったりと時間がとれませんが、必要に応じて、希望の曜日や時間を聞き、できるだけ対応します。		
その他	特記なし		